

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102637		
法人名	株式会社アイ・エル・エス		
事業所名	グループホームありすの家		
所在地	長崎県長崎市椎の木町25番19号		
自己評価作成日	平成30年3月9日	評価結果市町村受理日	平成30年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成30年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の始まり、職員が利用者様お一人お一人に顔を見ながら「おはようございます」と挨拶をすると、普段あまり言葉を発せない利用者様でも笑顔で「おはようございます」と挨拶をしてくださいます。また、「元気がなかね」「どうしたとね」と職員の事をくださってかけてくれる言葉に私達も時々元気なパワーを貰ったりしながら家族のように過ごしています。レクリエーションを始めると殆どの利用者様が参加されます。できることは声かけし、できないことは励ましながら笑顔でサポートしています。このホームではできないことは無理強いないようにしています。少しでもできることならば可能性を信じ、職員全員がゆっくり見守り待ちます。毎日を本人に合ったペースで安心して穏やかに過ごしていただけるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「入居者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、入居者の可能性を信じ、ゆっくり待つ」ことを大事にしながら支援に努めている事業所です。介護経験の長い職員も多く、言葉のかけ方や入居者の気持ちの変化に寄り添い、入居者の心身の状態を理解しながらその人らしい暮らしの実現に向け取り組んでいます。年々入居者の重度化が進み、身体的な介護量も増えつつある現状にありますが、職員の視点でできない、無理をさせないと決めつけず、「まだできる」と信じながら日常生活の中で支援に生かされています。長年の職員の経験から意思疎通が困難な中にも、その人が一番居心地のよい場所や関わり方が見い出され、症状の改善につながった事例も確認できました。前代表が職員の世代交代で介護現場に関わりながら入居者や職員の育成に携わり、また管理者もその時が近づきつつあることから、若い力で現場を引っ張りながら人材育成に努め、今後の展望に向け熱心に取り組んでいるホームであることが窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価及び外部評価結果

ユニット名 グループホームありすの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼の際に職員全員で理念を読み上げ、理念に沿ったサービスを目指し、職員と管理者が一丸となっている。	職員は毎日のミーティングにおいて、支援の状況から理念を振り返り、職歴の違いから生じる認識に差異が生じないように話し合い、理念の浸透に努めています。管理者は日頃から職員間で風通しのよい環境作りに配慮し、考え方にずれが生じた際は職員と個別に話しながら支援の統一が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 平成30年3月9日	地域住民の一員として、自治会に加入している。運営推進会議を通じて、地域の皆様の理解を深めることができているので、行事等への参加を声掛けしていきたい。	日頃から地域住民との交流の機会が多い民生委員の協力によって地域とホームの交流の機会が持たれています。民生委員が地域住民を連れて推進会議への参加やホーム見学の機会となり、ホームの特色への理解や地域の情報交換の場にもなっています。地域の方にとってホームが身近な存在となり、地域と入居者の交流の場が広がりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員だけでなく、地域の方が来られるようになり、介護相談を受けている。ホームとしてできることはどんどん協力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間の生活風景をビデオを観ながらお伝えし、ホームへの理解に繋げている。会議には毎回利用者様に参加していただき、地域の方とお話していただいている。	定期的に開かれる推進会議では、ホームの現状や介護の方針がそのまま伝えられ、参加者への理解や運営の透明性が図られています。今年度の会議では避難訓練実施状況について参加者より質疑があり、夜勤体制や入居者の居室の選定、入居者の身体状況に応じた避難誘導方法などホームの取り組みについて周知が図られました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に来ていただくことでホームの実情や取り組み等をお伝えすることができている。	推進会議には地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状への理解及び相談に応じて適切な機関へ繋ぐ協力が得られています。入居者の背景に応じて安心サポートセンターへ相談し、関係機関と協働の姿勢で関わりながらよりよい支援に繋げるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを原則に介護にあっている。	職員は、入居者の不安や思いに寄り添いながら心情の理解に努め、専門性を持った関わりによって拘束のない支援に努めています。職員は入居者と視線の高さを同じにすることで居心地のよい場所や関わりを共通理解し、その方との心をつつにしながら信頼関係を大切にできるよう努めています。入居者の行動や決めることを尊重した丁寧な関わりによってその人らしい暮らしの回復に繋がっている事例も確認できました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解、遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を学んだ者が機会があれば職員への説明を行っている。制度を利用している利用者様が入所されたことで理解を深める良い機会となった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書、金銭管理や終末期の対応について説明し、疑問点や不安事にはその場で答え、理解納得していただいた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族等からの意見や要望があった場合は早急に話し合い、対応している。また、ご家族の訪問時には常に何でも言ってもらえる雰囲気づくりを心掛けている。	職員は、家族の面会時に現状を隠さず伝えることを意識し、入居者や家族が気兼ねなく話ができる環境を作りながら寄り添い支援に努めています。入居者の暮らし方を家族と共に話し合い、家族の介護方針を支援にくみ取りながら入居者や家族が安心して生活が送れるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から話しやすい関係づくりを大切に、意見や提案があればすぐにできるようにしている。常に職員の意見を聞きながら決定をしている。	代表や管理者は現場で直接支援する機会が多く、職員と身近に関わることで介護の方針や気づきを職員に伝え、支援の充実が図られています。今年度は新規職員の採用があり、様々な事業所での勤務経験がある分、重度化しつつある中で残存機能を生かしたりハビリや発語のためのレクリエーションを考案に至るなど、職員の意見を積極的に取り入れ働きがいのある環境作りを努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員と一緒に利用者様と過ごし、職員の悩みを把握して解決するよう努めている。また、働きやすい職場づくりを第一に考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を基に職員が知識や技術を習得できるようにしている。職員一人ひとりの力量を把握し、個人的に指導することもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等での交流はあるが、ネットワークづくりには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は必ず面談を行い、本人の意向や現状を十分把握したうえで本人と向き合っている。最初の段階で本人が安心できる職員を把握し、慣れるまでのサポートを担当している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの相談やホーム見学の段階で困っている事や不安に感じている事、これまでの経緯について十分に聞き、入居後も密に連絡を取り合うことで信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人やご家族から情報収集を行い、何が必要かのご相談を受けている。入所とはならなかった際には、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへ繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日一日を共に過ごし、その中には笑いもありながら、職員の帰りの際には利用者様からの「おつかれさま」の言葉に明日の元気をいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時には利用者様と一緒に喜び、本人のホームでの様子をお話しながら一緒に会話を楽しんでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より伺っている友人、手紙等が届く知人など、職員も気を付け必要な時は連絡支援をしている。	家族や知人など面会に制限はなく、本人がこれまで大事にしてきた関係性が継続できるよう支援しています。中でも家族と一緒に過ごす時間を大事に捉え、正月や盆などできるだけ家族と過ごせるよう思いをくみ取り、本人が最も安心できる家族と信頼関係を築きながら支援に努めています。その方が人生を歩んだ道のりや寂しさに寄り添い、安心して過ごすことができるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブル等目にする時は、何気なく仲裁に入り、自然な形で元に戻れるよう努めている。利用者同士の関係を把握し、食堂の席なども配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も電話等で本人の様子を尋ねたり、ご家族との付き合いを継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化し、自分の思いを口にすることができない方もおられるが、日々の関わりの中で時折発する言葉や行動、表情から思いを汲み取っている。	職員は改めて「意向」を言葉で表現しづらいことを考慮し、入居者や家族との関わりの中から表情やしぐさ、またその方が発する言葉の中から暮らし方の意向をくみ取るよう努めています。入居者との会話の中でどう本音を引き出していか、職員が様々な角度からアプローチし、その中で一番生き生きした場面や表情をくみ取りながら思いの集約に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族への聞き取りだけでは把握できない生活歴を普段の何気ない会話の中から聞き取ったり、ご家族の訪問時に本人と一緒に話をしながら情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で利用者様の行動や発言の気づきを記録している。また、小ミーティングをすることで非常勤の職員にも情報の伝達ができている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者主体の暮らしができるよう、普段から関わりのある職員からは細かに情報を収集し、介護計画の作成に活かしている。	職員は入居者の可能性を信じながらゆっくりと見守り、年齢を重ねるごとに生じる体力の衰えを職員間で把握しながら普通の生活が安心してできるよう支援に努めています。介護計画の立案の際には入居者や家族の意向を踏まえ、現状を職員間で話し合いながら本人ができる範囲のことを生活に組み入れ、支援に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の個々の記録や連絡ノート等から情報を収集し、見直しを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態だけではなく、ご家族の状況の変化にも配慮し、要望に沿ったサービスが受けられるよう、ホームとしてできる対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得ながら、利用者、職員共に生き活きとして過ごすことができている。民生委員の働きかけで地域の皆様にホームを知っていただけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医での医療を希望される場合は、基本的に家族対応でお願いしているが、場合によっては職員が受診介助を支援している。又、ホームの協力医により定期的な往診、緊急時は24時間対応していただいている。	職員は入居者の健康状態に注意を払い、定期的な協力医による往診を受けながら小さな変化や急変に迅速に対応できる体制を整え、支援に努めています。職員は往診や受診の際の指示、留意点を往診ノートで職員に周知し、次の受診時までの経過観察や内服の変更による変化等を話し合いながら適切な医療に繋ぐよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員がおり、看護の面での相談をしている。また、週1回主治医の往診に看護師が訪問しているので、相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報提供を行うと共に、早期退院に向けて、医療機関やご家族と密に連絡を取り合い、カンファレンスにも職員が参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の判断により医療処置及び医療行為を必要とし、ターミナルと判断された場合はホームでの介護が困難な為、医療機関への入院又は退所となることを入所前に説明し、理解をいただいた上で契約をしている。	ゆくゆくは家族の意向を踏まえ、看とりを実施していく意向にありますが、現在は死に直面する職員の精神的な負担を考慮し看とりに対応できていない現状にあります。ただし、医療の必要性が増えるまでは、入居者が口に含めることができるものを積極的に準備し、ホームで対応できるぎりぎりのところまでを介護力で支援していることが窺えます。今後は職員の精神的な不安を考慮し、実施環境を整えていくことが望まれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対処方法について、マニュアルで周知徹底を図り、より実践力をつけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	職員全員、利用者全員が一緒に実践に即した避難訓練を行っている。定期的に水消火器を使用した消火訓練も行っている。車椅子が使用できない場合の避難を検討している。自然災害時の避難場所へ職員膳全員が訪れ確認している。	月1回定期的に実施される避難訓練では、出火場所の想定を毎回変更しながら、各職員や入居者が臨機応変に対応できるよう努め、誰もが初期消火、通報、避難誘導方法が体得できる訓練体制となっています。今年度は居室入口に個々の移動方法が分かるマグネットを準備し、入居者の身体状況が目視確認できるよう地域からの応援態勢に備えました。また自然災害に注意を払い、危険個所の把握や土砂災害への対応方法を確認する機会に繋げています。	今年度、風水害の避難訓練に取り組み、ホーム周辺の地形や一時避難場所の確認、検討に取り組みしましたが、現在、災害計画の策定に至っておらず、具体的な対応について整備が不足している状況にある様子が窺われました。入居者の避難誘導方法を再度確認し、有事の際の体制作りが望まれます。また地域と共に避難訓練や消火器の使い方など連携しながら入居者の更なる安全の確保への取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者様に対し、人格を損なうような言葉遣いをしていないか、普段から職員でミーティングをしている。	職員は親しみのある関わりの中にもひとりの人として尊重し、敬った関わりで支援するよう努めています。入居者の不穏時も職員の丁寧な関わり方によって落ち着きを取り戻す事例も確認できました。入居者それぞれに応じて言葉の使いかたや接し方に变化をつけ、個別に何が必要かを考え支援に繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が何を伝えたいのか、何をしたいのか表情や言葉の反応を読み取りながら本人の希望を把握する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が落ち着く場所で、本人のペースを尊重しながら過ごせるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は、一緒に希望に合わせた服選びをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを活かしながら、季節感を大切にメニュー作りを心掛けている。	入居者それぞれに咀嚼や嚥下状態に合わせた食材の調理方法を検討し、柔らかさや切り方を加減することで食材の色身や形を崩さず、入居者が同じものを口にできるよう工夫がなされています。あくまでも自力摂取を目標にし、手が止まった段階で声かけし部分的な介助を行いながらできる限り入居者の力を生かした支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、職員が情報を共有している。困難な場合は主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず利用者様の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を把握し、身体の様子などに合わせ、本人の訴えなどにより誘導しながら排泄観察をしている。	入居者の居室を自宅と捉え、居室は排泄する場所ではないことを意識した支援に努めています。入居者のしぐさや排泄パターンを把握しながらトイレでの排泄を基本とし、入居者が立ち上がったタイミングを見ながら自然な形でトイレに導き、できるだけオムツやパットを使用しない支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事内容などを見直し、困難な場合は主治医に相談し、本人に合った薬等で様子を見ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	今現在では入浴に対する希望を持った利用者はいない。入浴が嫌いな利用者様には職員が関わりを持ちながら快く入浴できるように努めている。	週に2回の入浴を基本とし、できるだけ寛ぎながら入浴できるよう時間をゆとりとりながら支援に努めています。時季により季節のお湯を準備し、入浴に癒しを感じてもらえるよう支援もできています。立ち上がりや移乗の場面でも入居者のできる力を優先し、その方の移乗能力に応じて職員が2名で介助しながら安全安楽に移乗できるよう支援して	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は本人の様子を見ながら自室で休まれる方、休息をされない方には無理強いすることなく、夜間に安眠できるよう個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様に処方されている薬の説明書には必ず目を通している。誤薬防止の為に、服薬チェックに薬を飲んだ事を確認した職員が記名をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下ごしらえ、新聞紙の整理など疲れない程度に役割を持っていただき、裁縫が得意だった利用者様には普段から針仕事をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族とよく話し合い、本人の希望があれば外出できるようにしている。外出前には職員と一緒に服を決めたり、持ち物を用意したりしながら喜びあっている。また、外出時には必ず健康状態の伝達を行うようにしている。	入居者は自由にホーム周辺の散歩に出かけることができ、気候がいい時にはホームから手作り弁当を持参し地域の公園へ季節の花見に出かけることもあります。入居者の体力的に一緒に買い物に出かけることも難しくなりつつある現状にありますが、家族の協力を得ながら外出外泊を取り入れ気軽に気分転換が図れるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額ではないが、お金を手元に持っておられる利用者様もいる。外出の際のタクシー代はご自分で支払いをしたり、買い物などを依頼された場合は領収書を渡し、品物と合わせながらつり銭と一緒に確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	難聴の方が多く、職員が付き添い伝達しながら電話をしていただいている。長い文は難しいが、「元気です」等の短い文の手紙で近況をお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけや置物などは季節を感じるものを置くようにしている。また、季節の花がある時は利用者様からよく見える所に置いている。窓にはブラインドが取り付けがあるので、日差し等への配慮もしている。	入居者と職員によって清潔に手入れされた共用空間では、家庭的な雰囲気を保ちながらも整頓が行き届き、自然の明かりや風の流れを取り入れながら心地良い空間が準備されています。廊下には入居者が作成した、きめこみパッチワークが飾られ、季節感や温かみを添えるものとなっています。入居者が趣味に興じながらもアットホームな雰囲気の中で寛ぎながら過ごすことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに置かれたソファで思い思いに過ごしている。共有空間に一人でも利用者様がおられる時は必ず職員が見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具の配置など本人の希望で模様替えをすることもある。好きだった歌手の写真などを部屋に飾っておられる方もいる。また、ご自分で作った作品をたくさん飾っておられる方もいる。	入居者それぞれに応じた家具の配置となっており、自宅からの使い慣れた家具や家族との思い出が詰まった道具に囲まれながら、居室がその入居者にとって心地よい空間となるよう配慮されています。居室にはソファの持ち込みも多く、家族が居室でゆっくり過ごすことができる様子も窺えました。職員と共に手入れがなされ、清潔感が感じられる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々、体調、気分、歩行の状態など変化があり、よく観察しながら状況に応じた対応をしている。		